

家族の助けあい

夏休みが始まってしばらくした頃の夜、夏期講習から帰ると、テレビで強度行動障害のある子とその家族の特集が放送されていました。

強度行動障害という言葉、私はその時初めて知りました。怖い感じがする名前だなと思いました。テレビで見ていると、その言葉の通り、「困った行動」のレベルが命に関わるようなものでした。例えば、テレビに出ていた子は、血がでるまで自分の顔を叩いてしまったり、大人が止めるのをふり切って、全力疾走で大通りを走って行ってしまったり・・・という危険な行動です。

その子たちを支える周りの大人も、とても大変そうでした。家族の他に、デイサービスのスタッフさんや、学校の先生などが毎日必死に命を守っていました。

「障害者」と一言と言っても、いろいろな人がいるなあと感じました。パラリンピックなどに出場し、世界で活躍できる人もいればつねに隣に支援者がいないと、命に危険が及ぶような人もいます。

私がふだん、外で強度行動障害と言われるような人に出会わないのは、きっと、その人の隣にいる家族や支援者の人が、必死で危険のないように守ってくれているからだと思いました。すごく責任重大で大変な仕事だと思います。

私の姉も、今は中学一年生で少し落ち着いたけれど、昔は危険な行動がたくさんあったそうです。家の中は、当時の工夫のあとがたくさん残っています。吹き抜けは金網で閉鎖されているし、ベランダはサンルームのように囲っています。庭は、高い壁で囲ってありドッグランのようになっています。窓には、それぞれ鍵が複数ついています。

今は、そんなものが無くても、高いところには登らないと思うし、窓から勝手に出て行ったりもしないと思うけれど、小さい頃は、とても重要な命を守るバリケードだったそうです。

テレビ番組では、後半に、絵カードを使って意思を伝えるという方法が放送されていました。この方法を使えば、言葉を話せない人でも、自分の意思を伝えることができます。伝わることでイライラも減って、困った行動が少しだけ落ち着いたというお話がありました。伝わることで安心して安心することなんだなと思いました。

自分に置き換えて少し想像してみました。もし、家族に今日学校であった出来事をいっしょうけんめい話したあと、全く関係のない事を言われたり、聞いてもらえていなかったら・・・すごく悲しいし、ストレスです。

強度行動障害の人も、その家族も、毎日緊張感いっぱいのはりつめた気持ちで、必死に生活していると思います。

この番組では、最後に家族の人からのお話で「こんな方法で、少し楽になったよ」とか、「こんな福祉サービスを使って、連けいが取れたよ」という紹介もされていました。テレビの力はすごいなと思いました。家の中で、誰にも相談できずに困っている家族の人が

いたら、この番組を見てくれたらいいなと思いました。